

# 「分析支援プログラム」を活用した効果的な取組事例(小学校)

【越谷市教育委員会】

## 1 学校 教科 小学校 算数

2 ねらい 「分析プログラム」を活用し、県学習状況調査の結果を分析することによって本校の課題を明確にし、指導法改善に生かすことで、確かな学力が身につくようにする。

## 3 取組内容

(1)23年度県正答率との比較による課題の明確化を図り、改善の手立てを考察する。

平成23年度 学習状況調査分析支援プログラム<小学校>											
学習指導要領の項目	問題番号	問題	評価の観点						県正答率	本校正答率	グラフ
			1	2	3	4	5	6			
数と計算	4年14ウ	(1)	1			○			☆	95.1	95.3
		(2)	2						☆	91.9	92.5
		(3)	3			○			☆	84.2	70.7
		(4)	4			○			☆	84.5	88.9
数と計算	4年17ア	(1)	5				○		☆	93.8	93.5
		(2)	6						☆	74.0	70.1
数と計算	4年14イ	(1)	7				○		☆	95.7	96.3
		(2)	8						☆	88.2	84.1
数と計算	4年12イ	(1)	9				○		☆	88.1	83.3
		(2)	10			○	○		☆	74.7	77.8
数と計算	4年12ウ	(1)	11		○	○			☆	89.8	88.9
		(2)	12				○		☆	88.2	88.4
量と測定	4年12ア	(1)	13			○			☆	88.9	88.9
		(2)	14	○	○				☆	83.2	84.5
量と測定	4年17ア	(1)	15	○	○				☆	87.7	83.8
		(2)	16	○	○				☆	89.4	90.7
図形	4年11ア	(1)	17				○		☆	88.9	90.7
		(2)	18				○		☆	87.1	88.0
図形	4年11ウ	(1)	19		○	○			☆	73.5	75.7
		(2)	20				○		☆	85.1	88.3
図形	4年11イ	(1)	21			○			☆	67.9	70.8
		(2)	22		○	○			☆	79.9	78.5
数量関係	4年13イ	(1)	23			○	○		☆	84.0	85.0
		(2)	24		○				☆	77.0	81.3
数量関係	4年12ウ	(1)	25			○			☆	89.4	89.7
		(2)	26		○	○			☆	93.5	92.5
数量関係	4年17ア	(1)	27	○					☆	83.3	82.9
		(2)	28	○	○				☆	48.8	42.2
数量関係	4年12イ	(1)	29	○	○				☆	75.9	74.8
		(2)	30	○	○				☆	44.3	44.9

**内容：分数の意味**  
 「数直線上の目盛りを読み取り、分数で書き表す問題」

(多かった誤答)  
 ●分数で答える所を小数で解答している。  
 ●分母を間違えている。

(改善の手立て)  
 ○数直線の目盛りの読み方を丁寧に指導する。  
 ○全校共通したノート指導を行い、問題を正確に読み取れるように、重要な部分にラインを引かせる指導を徹底する。

**内容：伴って変わる二量のきまりと数値**  
 「1辺が1cmの正方形が1列に並んだときの正方形の数とそれによって変わる回りの長さの関係を表から読み取る問題」

(多かった誤答)  
 ●正方形が6つ並んだときの回りの長さを  $6 \times 4$  をし24cmと答える。

(改善の手立て)  
 ○自力解決を重視し、様々な関係式を立式する習慣を身につけさせる。  
 ○課題を与える場面などでICTを活用し、視覚に訴え、わかりやすい課題の提示を心掛ける。

分析プログラムから明確になった、23年度本校の算数科の重点領域と重点課題

- 重点領域…「数直線の目盛りのよみ方」「分数の約分」
- 重点課題…「文章問題の読み取り方」「表現力を高める話し合い活動」

(2)課題解決のための授業作りの実践

①単元配当表に重点領域を網掛けにして配布し、活用する。(4学年の例)

月	4月	5月	6月	7月	1学期	9月	10月
算数	大きい数 のわり算 7	角の大きさ のわり算 4	わり算 1 6	垂直・ 四角 3	63	小数の わり算 10	わり算の わり算 2
	角の大きさ 5	わり算 1 13	垂直・ 四角 13	考える 伸ばす 1		わり算 2 7	形で遊 ば
				折れ 線 7			整理の仕 方
				そろば ん 4			計算の 活 き

②算数科授業における全校共通の学び方の定め、その徹底を図る。



③算数少人数加配教員の配置の工夫

・それまで少人数加配教員を3～6学年に分散して配置し、習熟度別指導を行っていたが、23年度の課題から4・5学年を重点指導学年として集中的に配置し、習熟度別指導・少人数指導を単元の特性に応じて使い分けられるようにした。これにより低位児童の底上げが図られた。

4 成果と課題

①成果

- 昨年度の課題に改善がみられた。
- 正答率の向上(県平均を越えた観点)  
23年度 11/17項目  
24年度 15/17項目
- 記述式問題の無回答が減少している。

②課題

- ・関連探索シート・クロス集計の活用
- ・個に応じた指導に向けての活用

	23年度	24年度	
分数の意味	-8.1	-6.8	1.3↑
伴って変わる量	-4.6	+9.7	14.3↑

